

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370411

研究課題名(和文) 中国における日本近代文学受容の研究 魯迅・周作人編『現代日本小説集』を端緒として

研究課題名(英文) A Study of the Acceptance of Modern Japanese Literature in China - Based on Lu Xun / Zhou Zuoren's translation "Contemporary Japanese Novel Collection"

研究代表者

秋吉 収 (AKIYOSHI, SHU)

九州大学・言語文化研究院・准教授

研究者番号：90275438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：近代における中国と日本の比較文学研究は、漱石や芥川を中心に多くの蓄積を有するが、中国における日本近代文学の受容に関する研究は、意外なほどに進んでいない状況にある。本研究は、魯迅・周作人編訳『現代日本小説集』(1923)を端緒として、魯迅の代表作『野草』(1923)に溶かし込まれた日本文学作品、さらに日本と中国が交差する台湾文学の領域にも探索を進め、中国と日本の近代文学を新たな視点から分析・検証したものである。

研究成果の概要(英文)：The comparative literature research between China and Japan in modern times has a large accumulation mainly in Soseki and Akutagawa. However, research on accepting Japanese modern literature in China has not progressed unexpectedly. This research is based on Lu Xun / Zhou Zuoren's translation "Contemporary Japanese Novel Collection" (1923), and focused on a domain of Japanese literary works that influenced Lu Xun's masterpiece "wild grass" (1923). Also, the Taiwanese literature that Japan and China intersect is also considered in the study. It analyzed and verified the modern literature of China and Japan from a new viewpoint.

研究分野：中国文学

キーワード：中国近代文学 日中比較文学 魯迅

1. 研究開始当初の背景

中国における日本近代文学の受容に関する研究は、意外なほどに進んでいない。日本における中国文学研究は、近代中国の著名作家研究、日本への受容、日本文学との接触については蓄積を有するが、日本文学の中国への進出に注目した研究は非常に少ない。一方、中国の日本文学研究においては、その方面での業績が日本よりは多いとは言え、やはり盛んとは到底言い難い状況にある。またその研究視角はやはり往々にして中国の文学史にやや偏したものであり、日本文学の背景等の詳細な目配りが疎かになっている。こうした状況下、日本側からの研究が切に求められている。日本文学を中国文学の視点、つまり異なる文学観、歴史、制度からどのように選択・受容されたかを究明し、日本における認識との相違点等を分析することは、近代中国を照射するとともに、日本近代文学自体を改めて検証する意味でも、極めて有益なよすがとなる。

2. 研究の目的

魯迅、周作人兄弟が編訳した、中国で最初の日本近代文学精選集『現代日本小説集』(1923年)についても、その重要性にも拘わらず、それへの関心は意外なほどに極めて低く、魯迅研究の上でもほとんど無視された状態(専論は中国では皆無、日本に一篇のみ)であることは意外の感が強い。まずは、日本近代文学移入の先駆けたるこの作品集について、魯迅周作人が依拠した原版本の跡付け、整理を可能な限り行う。最終的には、魯迅周作人の取り上げた作家に止まらず、近代中国における日本文学受容の全体像の解明を企図する。

当時中国で紹介された、人気があったとおぼしき日本近代文学作品を瞥見すれば、ある事実に容易に気付かされる。それは、中国での人気作品は必ずしも日本での人気作品と一致しないということだ。また、同じ作品の中国での評価をつぶさに繙けば、その内容が日本での作品評価と大きく異なるものも多い。その差違に両国の趣向の相違を見ることができ、そこには当時の日本と中国が目指すところの相違、また、成熟期と黎明期というそれぞれの近代のありよう自体の相違が如実に反映されている。

歴史に埋もれた原資料の発掘により中国近代の思考過程を追跡することは、日中両国の近代文学の諸相を明らかにするばかりでなく、両国の思惟、民族性理解へと繋がる契機を秘めている。そこに現代の日中関係のあるべき姿を繙く鍵が隠されているのではないかと考えている。

3. 研究の方法

- ・近代中国における日本近代文学受容に関する研究の現状を把握、分析する。
- ・近代中国における日本近代文学の翻訳・紹

介に関する文献、原資料を可能な限り収集整理し、多角的な分析を行う。

- ・研究期間前半では、まず『現代日本小説集』の収録作家についての調査を徹底的に進める(申請者のこれまでの成果に基づき、芥川、佐藤春夫等から着手)。

研究期間後半では、中国に紹介、移入された「近代日本文学」全体へと視野を可能な限り広げ、中国における日本文学受容の全体像を把捉しつつ研究を進める。

- ・日本及び中国の近代文学、比較文学等関係学会において研究発表を行うとともに、内外に発信する。

4. 研究成果

中国で最初に出版された日本近代文学(翻訳)アンソロジーたる魯迅、周作人兄弟編訳『現代日本小説集』(1923年)を中心に、魯迅・周作人兄弟における日本近代文学受容状況を繙く作業について、魯迅を中心とする中国近代文学文献の調査と、日本の個々の作家の具体的状況調査から着手した。新聞雑誌(まずは『晨报副刊』『小説月報』『東方雑誌』など)への掲載状況等を詳細に調査し、中国への翻訳紹介の実態について分析を進める作業を開始した。

実績として、一年間に以下四篇の学術論文を執筆した。「被忽略的兩個字-從語言学的角度再談《野草・影的告別》」(『國際魯迅研究』第2輯 台北:秀威資訊科技股分有限公司刊、平成26年5月)では、魯迅の代表作『野草』を、7年にわたる日本留学生たる魯迅の言語感覚という新しい視角から研究した。「近代中国における大正文学の受容 『現代日本小説集』及び芥川龍之介を手掛かりとして」(『言語文化論究』第33号、九州大学言語文化研究院、平成26年10月)では、『現代日本小説集』に収録される日本作家のうちから、まず芥川龍之介を取り上げ、詳細に調査分析を行うことで新しい知見が得られ、一定の高い評価を得た。「“雑文家”魯迅の誕生」(『韓中言語文化研究』第36輯、韓国中国言語文化研究会、平成26年11月)では、魯迅の文学者としての意義について、日本を含む外国文学の影響を考慮しながら、従来の見解を修正した。ト鴻氏との共著「論中国現代詩人郭沫若1949年後詩作中的“紅色”思想變遷」(『言語科学』第50号、九州大学言語文化研究院、25~38頁、平成27年3月)では、九州大学に留学して重要な文学結社創造社を立ち上げた郭沫若について、新しい視点を提起した。

その後、研究対象として魯迅、周作人兄弟編訳『現代日本小説集』収録作家を取り上げると同時に、魯迅・周作人以外の日本留学を経験した中国・台湾文人の活動にも注目した。具体的には、中国・台湾文壇全体の動向と、そこに紹介、移入された「近代日本文学」全体の状況を把捉、分析していく作業を進めた。中国及び台湾の各新聞雑誌に掲載された日本文学翻訳・紹介、また出版刊行された日本

文学翻訳単行本を徹底的に渉猟し、関連文人とその周辺（文学傾向、活動）状況について詳細な調査分析を進めている。

実績として、以下二篇の学術論文を執筆した。「魯迅『野草』誕生における“批評家”成ホウ吾の位置」(『野草』第96号 中国文芸研究会 2015年8月)では、1910年から21年にかけて、岡山の第六高等学校、東京帝国大学に学んだ近代中国の代表的批評(評論)家の成ホウ吾に注目し、特にその魯迅との文学交流について新発見を提示した。「『随感録三十八』は誰の文章か? ル・ボン学説への言及に注目して」(『周作人研究通信』第4号 周作人研究会 2015年12月)では、魯迅作と考えられていた文章が、実際には弟の周作人の手になるという従来から提起されている問題について、フランスの社会学者ル・ボンへという新しい視角から読み解いた。また魯迅周作人兄弟がル・ボンを読むにあたって使用した日本語訳版本についても詳細な調査分析を行うことにより、中国近代文学の発展における日本の果たした意味について新たな視点を提示することができた。また研究代表者の主編による共著『現代の日本における魯迅研究』(2016年3月、九州大学言語文化研究院、【言語文化叢書22】)を出版。日中双語という新しい試みにより、日本における中国近代文学研究を広く世界に発信することができた。

さらに、中国文学の主流から離れて日本近代文学に注目した魯迅および周作人のより深い意識に迫ることを企図した。視点としては、やはり主流から外れた辺境の文学者、徐玉諾という作家に改めて注目した。また、『現代日本小説集』にも収録されるが、中国と日本の近代文学を切り結ぶ上で最も注目される、芥川龍之介、佐藤春夫の文学について、台湾等の動向を一層深く分析するとともに、今年度はその具体的なテキスト分析を開始したことが特記されよう。詳細な調査分析を鋭意進めている。

実績として、著書を2冊刊行すると同時に、3篇の学術論文を執筆した。単著論文、「魯迅与徐玉諾- 圍繞散文詩集『野草』」(季刊『漢語言文学研究(河南大学)』2016年第1期〔第7巻総第25期〕、『中国現代、当代文学研究』2016年第6期〔中国人民大学書報資料中心〕轉載)は中国語による執筆。上記の作家徐玉諾について、魯迅の代表作『野草』との関連を中心に研究。該論文は徐玉諾の故郷たる河南省の最も権威ある学術誌に掲載、その後全国誌に掲載され、中国にても高い評価を得た。「台湾における芥川龍之介受容の諸相」(『言語文化論究』第37号 九州大学言語文化研究院 2016年10月)では、芥川受容の實際を、大陸中国から台湾へと焦点を移し、詳細に分析検討を行った。その結果、中国とは全く異なる様相が改めて浮き彫りになり、中国と日本の文学交流を照射する重要な視角としての台湾の意義が改めて明らかになった。

「『現代日本小説集』における佐藤春夫 その版本及び訳文の検討を中心に」(『言語科学』第52号 九州大学言語文化研究院 2017年3月)では、種々の原本並びに翻訳テキストの一字一句に至るまで詳細に校合を行い、翻訳者魯迅の意識の深層を探るとともに、従来見落とされてきた少なくない事実を発掘した。結果、魯迅ひいては近代中国における翻訳の意義と問題点等がより具体的に解明できた。

また、『現代日本小説集』の中心作家たる夏目漱石を取り上げて研究を進めた。代表作『野草』など魯迅自身の著作や、日本(文学)研究の上では魯迅よりも業績の多い弟の周作人の具体的な文学営為について、新しい発見を伴う研究成果を提出することができたと考える。引き続き、辺境の文学者徐玉諾にも目を注ぎ、彼の出身地河南省の研究者と共に『徐玉諾叢書』の編纂に尽力した。

また、「翻訳」の概念について、林紓に始まるとされる近代中国における「翻訳」が、魯迅周作人兄弟に至って如何に変容したのか。近代中国における翻訳の意義と問題点について、一つの回答を提示することができたことは特記したい。

実績としては、まず『徐玉諾研究叢書 將來之花園』(2017年5月初版、河南:徐玉諾学会、『徐玉諾研究叢書』学術委員会)、『徐玉諾研究叢書 徐玉諾詩文選讀』(2017年9月初版、同学会・学術委員会)に「魯迅与徐玉諾 圍繞散文詩集『野草』」(轉載)「頼和与徐玉諾 “台湾的魯迅” 與大陸新文学的關係」「作為“郷土文学” 作家的徐玉諾」關於未刊行的『徐玉諾小説集』」を発表した。また3篇の学術論文を執筆した。単著論文として「中国近代文学創出に関わる「翻訳」の意義 魯迅・周作人編訳『現代日本小説集』、散文詩集『野草』を端緒として」(『言語科学』第53号 九州大学言語文化研究院 2018年3月)並びに、「『野草』与日本 關於兩個詩人」(『學術月刊』2018年第3期〔第50巻、総第586期〕 上海市社会科学界聯合会 2018年3月)を執筆。『學術月刊』誌は、所謂「核心期刊」であり、学会発表後に投稿の依頼を受けたもの。また、共著論文「魯迅与夏目漱石 從社会批評与文明批評的視角看」(『言語文化論究』第40号 九州大学言語文化研究院 2018年3月)を執筆した。

5. 主な発表論文等(注記の有るもの以外はすべて研究代表者単著)

〔雑誌論文〕(計17件)

1. 「被忽略的两个字-從語言学的角度再談《野草·影的告別》」(『國際魯迅研究』第2輯 [台北:秀威資訊科技股份有限公司刊] 1~14頁 2014年5月)

2. 「近代中国における大正文学の受容 『現代日本小説集』及び芥川龍之介を手掛かりとして」(『言語文化論究』第33号 19~37頁 九州大学言語文化研究院 2014年10月)

(論說資料保存会編『中国關係論說資料 57 文学・語学編(上)』収録)

3. 「“ 雜文家 ” 魯迅の誕生」(『韓中言語文化研究』第 36 輯 197~214 頁 韓国中国言語文化研究会 2014 年 11 月)
4. 涂鴻氏との共著「論中国現代詩人郭沫若 1949 年後詩作中の“ 紅色 ” 思想變遷」(『言語科学』第 50 号 25~38 頁 九州大学言語文化研究院 2015 年 3 月)
5. 「魯迅『野草』誕生における“ 批評家 ” 成仿吾の位置」(『野草』第 96 号 中国文芸研究会 1~16 頁 2015 年 8 月)
6. 「“ 随感録三十八 ” は誰の文章か? ル・ボン学説への言及に注目して」(『周作人研究通信』第 4 号 周作人研究会 10~24 頁 2015 年 12 月)
7. 「魯迅与徐玉諾 - 圍繞散文詩集《野草》」(季刊『漢語语言文学研究(河南大学)』2016 年第 1 期〔第 7 卷総第 25 期〕 77-85 頁、『中国現代、当代文学研究』2016 年第 6 期〔中国人民大学書報資料中心〕轉載 107-114 頁)
8. 「台湾における芥川龍之介受容の諸相」(『言語文化論究』第 37 号 79~102 頁 九州大学言語文化研究院 2016 年 10 月)(論說資料保存会編『中国關係論說資料』第 58 号〔平成 28 年分〕収録)
9. 「『現代日本小説集』における佐藤春夫 その版本及び訳文の検討を中心に」(『言語科学』第 52 号 95~108 頁 九州大学言語文化研究院 2017 年 3 月)
10. 羅執廷氏との共著「魯迅与夏目漱石 從社会批評与文明批評的視角看」(『言語文化論究』第 40 号 ~頁 九州大学言語文化研究院 2018 年 3 月)
11. 「Translation as a Media in Shaping Modern Chinese Literature: On Anthology of Modern Japanese Novels and Lu Xun's Wild Grass(YeCao)」(中国近代文学創出に関わる「翻訳」の意義 魯迅・周作人編訳『現代日本小説集』、散文詩集『野草』を端緒として)(『言語科学』第 53 号 1~18 頁 九州大学言語文化研究院 2018 年 3 月)
12. 「『野草』与日本 關於兩個詩人」(中国語)(『學術月刊』第 50 卷 15~22 頁【核心期刊】上海市社会科学界聯合会 2018 年 3 月)
13. 「魯迅与日本的大正文学」(『“ 魯迅与東亜文学 ” 國際學術研討会 論文集』 中国・国立蘇州大学、54~64 頁 2014 年 11 月)
14. 「日本現代文學在中國及台灣的受容 以芥川龍之介為線索」(中国語)(『在地與易地「第十一屆東亞學者現代中文文學國際學術研討會」論文集』、国立政治大学台湾文学研究所、99~122 頁 2015 年 11 月 13 日)
15. 「魯迅的新詩與日本現代文学」(『“ 傳承與變革 ” 紀念中国新詩誕生百年國際會議論文集』南京大学中国新文学研究中心、125~140 頁 2017 年 9 月)
16. 「芥川龍之介在中國 《現代日本小説集》、《支那遊記》和魯迅周圍」(『“ 漂泊與越境 :

東亜視域中的作家流徙與文学創世 ” 國際學術工作坊論文集』武漢大学文學院、264~275 頁 2017 年 9 月)

17. 「『野草』与日本」(『紀念《野草》出版 90 周年國際學術研討會論文集』 復旦大学中文系・復旦大学左翼文芸研究中心、79~91 頁 2017 年 11 月)

〔学会発表〕(計 20 件)

1. 講演「“ 中日友好 ” 歴史の一側面 語学学習の観点から」(第 1 回九州大学山東大学アジア研究シンポジウム 於中国済南市、国立山東大学 2014 年 10 月 23 日)
2. 「從比較文学角度看徐玉諾文学」(首屆全國徐玉諾文化學術研討会 於中国河南省立平頂山学院(大学) 2014 年 11 月 1 日)
3. 「魯迅与日本近代文学 以佐藤春夫及大正時代的雜誌為中心」(國際魯迅研究学会第 5 回學術蘇州論壇 於中国 国立蘇州大学 2014 年 11 月 21 日)
4. 講演「魯迅文学中的日本現代文学投影」 「現代中国文学和日本文学的交流 以与謝野晶子の活動為中心」(於中国成都市、国立西南民族大学 2014 年 12 月 4・5 日)
5. 講演「中国文芸思潮における日本現代女性作家」(於中国青島市、山東省立青島大学 2014 年 12 月 22 日)
6. 「“ 諷刺家 ” 魯迅の真面目 散文詩集『野草』命名論」(九州大学比文地球学府・山東大学学国語学院學術研究会 於九州大学 2015 年 3 月 26 日)
7. 「從語言學的視角再談魯迅『野草』」(第 17 屆韓中教育文化論壇〔首尔-北京-濟州-世界：通過中国語言文化的溝通〕 於韩国 国立濟州大学 2015 年 6 月 24 日)
8. 「西方文学对魯迅散文詩集『野草』的影響」(國際魯迅研究会第 6 屆學術論壇：杜塞尔多夫論壇國際學術研討会 於ドイツ デュッセルドルフ大学 2015 年 7 月 2 日)
9. 「日本現代文學在中國台灣的傳播與接受」(在地與易地 第十一屆東亞學者現代中文文學國際學術研討會 於台湾 国立政治大学 2015 年 11 月 13 日)
10. 講演「魯迅与日本現代文学」(第 2 回九州大学山東大学アジア研究シンポジウム 於中国済南市、於国立山東大学 2016 年 3 月 28 日)
11. 「中国・台湾における日本近代文学の受容 芥川龍之介を中心に」(平成 28 年度第 64 回九州中国学会大会 於〔長崎〕活水女子大学 2016 年 5 月 15 日)
12. 「成仿吾与魯迅《野草》」(『“2016 魯迅文化論壇 ” 暨國際學術研討会 魯迅 在傳統与世界之間』、於中国北京市 中国人民大学 2016 年 9 月 24 日)
13. 「“ 敵人 ” 对魯迅《野草》的影響」(『“ 跨語際對話 ” 文芸評論國際論壇 世界性与民族魂当代文芸評論視域中的魯迅傳統會議』、於北京第二外国語大学 2016 年 9 月 30 日)
14. 「淺談泰戈爾文学在中日兩国的差異性」

(『国際魯迅・タゴール学会学術論壇』 於インド ジャワハルラール・ネール大学 2016年11月12日)

15. 講演「台湾における文学と日本 “台湾の魯迅” 頼和から陳千武の生と死まで」(平成29年度福岡県高等学校国語部会北九州地区部会大会 於小倉リーセントホテル 2017年5月17日)

16. 「『随感録三十八』源於誰手? 以提及勒龐的学説為視角」(『国際魯迅研究会第8届学術論壇』 於ウイーン大学 2017年7月3日)

17. 「Translation as a Media in Shaping Modern Chinese Literature: On Lu Xun and Zhou Zuoren's Anthology of Modern Japanese Novels」(英語)(邦訳:「中国近代文学創出に関わる「翻訳」の意義 魯迅・周作人編訳『現代日本小説集』を端緒として」(『the 8th Asian Translation Traditions Conference (ATT8)』於ロンドン大学 SOAS [東洋アフリカ研究学院] 2017年7月7日)

18. 「芥川龍之介在中國 《現代日本小説集》、《支那遊記》和魯迅周圍」(『漂泊與越境: 東亞視域中的作家流徙與文学創世』國際学術論壇』於中国 武漢大学文学院 2017年9月10日)

19. 「魯迅の新詩與日本現代文学」(『傳承與變革』: 記念中国新詩誕生百年國際會議』於中国 南京大学中国新文学研究中心 2017年9月23日)

20. 「『野草』与日本 關於兩個詩人」(『紀念《野草》出版90周年國際学術研討會(復旦中文百年慶典學術活動)』於中国 復旦大学中文系 2017年11月20日)

〔図書〕(計3件)

1. 単著: 『魯迅 野草と雑草』(ISBN:978-4-7985-0191-8)九州大学出版会、2016年11月、総398頁。2015年度「第7回九州大学出版会・学術図書刊行助成」による刊行。

2. 共著: 『世界各国魯迅研究精選集 日本魯迅研究精選集』(ISBN:978-7-5117-3033-6)藤井省三編[飯倉照平氏ほか18名執筆]、2016年8月、中央編訳出版社(北京)刊。分担執筆「魯迅《野草》世界中的芥川龍之介」、192-213頁。

3. 共著: 『徐玉諾研究叢書 將來之花園』(全八冊の一)(史大観・徐西蘭編。2017年5月初版、河南:徐玉諾学会、『徐玉諾研究叢書』学術委員会。)秋吉論文「魯迅与徐玉諾 圍繞散文詩集『野草』」(218~243頁)「頼和与徐玉諾 “台湾の魯迅” 與大陸新文学的關係」(244~274頁)収録。共著: 『徐玉諾研究叢書 徐玉諾詩文選讀』(全八冊の六)(史大観編。2017年9月初版、河南:徐玉諾学会、『徐玉諾研究叢書』学術委員会。)秋吉論文「作為“郷土文学”作家的徐玉諾」(1139~1156頁)「關於未刊行的『徐玉諾小説集』」(1157

~1170頁)収録。

〔その他〕

1. 翻訳「徐玉諾の文学 序説: 近代中国の「怪」詩人」(『言語科学』第51号 77~88頁九州大学言語文化研究院 2016年3月)(論説資料保存会編『中国關係論説資料』第58号[平成28年分]収録)

2. 翻訳「中国の詩: 王家新、扶桑」(季刊詩誌『舟』170号 4~7頁 レアリティの会 2018年2月)

3. 「『首屆全国徐玉諾文化学術研討會』参加記」(2015年3月、『中国文芸研究会会報』第400期記念号 75~77頁)

4. 阿部康久、李曉燕、林心泰氏との共著「中国・山東大学への訪問と学術交流会を実施して」(2015年8月、九州大学大学院比較社会文化学府『CROSSOVER』No.37)

5. 「日本における中国文学研究 現状と課題」(編集後記)(『東方学』第131輯 東方学会 2016年1月)

6. 共著(秋吉編)『【言語文化叢書22】現代の日本における魯迅研究』(ISSN:1348-1800)195頁、九州大学言語文化研究院、2016年3月。

6. 研究組織

(1)研究代表者

秋吉 收 (AKIYOSHI, Shu)

九州大学・大学院言語文化研究院・准教授
研究者番号: 90725438